

ふるさとふれあい学習 ちまきづくり

1 はじめに

富貴地区は、和歌山県と奈良県の県境の山間、標高610mの盆地に位置している。かつては米作りを主としてきたが、今は多角経営に活路を求め、高冷地野菜やたばこ、ミョウガ、薬草などを栽培している。しかし、近年は、青年男女の町への流出が激しく、過疎化・高齢化が急速に進んでいる。

以前は、月遅れの節句に村中のどこの家庭でも、ちまきをつくっていた。そして、田植え休みの行事として、この地に嫁いだ女性がちまきをみやげに里帰りする風習があった。最近では、ちまきを作る家庭も少なくなり、本校ではこの風習を継承しようと平成元年からちまき作りをはじめた。地元の一人暮らしのお年よりを訪ねてちまきをプレゼントし、子どもと高齢者のふれあいやきずなを深めている。小中一貫教育モデル校となった一昨年より、小学生とその保護者のみなさんにも協力してもらい、合同ちまき作りに取り組んでいる。

ふるさとふれあい学習は本校の伝統ある教育活動である。ふるさとふれあい学習を郷土に根ざした「心の教育」ととらえ、ふるさとの豊かな自然やすぐれた文化を生かした体験的な学習や、郷土の発展に尽くしてきた高齢者との交流を活発に行ってきた。生徒一人ひとりが自分なりの思いをもって、ふるさとの自然や文化にかかわり、主体的に活動できるよう支援している。また、高齢者の郷土愛の深さや、人間としての温かさに気づき、生徒が人間としての生き方や在り方について考え、自覚を深めていけることを願っている。

2 指導計画

ちまき作り当日までの準備	
* オリエンテーション	4/11 (金) 5限
* ビデオ「笑顔を見たくて」を見て、自分の学習目標を立てる。	5/13 (火) 1限
* ちまき作りに向けての話し合い。 ・ 班分け (4班) ・ ちまきを届ける地域の分担。 東富貴 西富貴 ・ 地図と名簿の作成 (お年寄りの方の住まいの確認)	5/23 (金) 5限 6限
* 笹取り……上山へ……小中学生全員	5/29 (木)
* しゅろの葉	5限
* ちまきお便りの作成……(生徒会)	6限
* 調理室で用具の準備………班別に準備	6時間

ちまき作り当日 6月3日 (火)	
*エプロン・三角巾の用意	6/3 (火)

<ul style="list-style-type: none"> * 初めの挨拶・・・(生徒会) * 作り方の説明 (生徒会) * ちまきの数の確認 (小学低学年) * 終わりの挨拶 (生徒会) <p style="text-align: center;">(給食・終わりの会・班別にちまき配付)</p>	2・3・4限 3時間
<p>ちまき届け・お年寄りとの交流・・・小中学生全員</p> <ul style="list-style-type: none"> * お年寄りとの会話を大切に。 	6/3 (火) 5・6限 2時間
ちまき作りを終えて	
<ul style="list-style-type: none"> * 反省と感想 * 感想を出し合う。お礼状から学ぶ。 	6/6 (金) 5限 1時間 6/13 (金) 5・6限 2時間
全14時間	

第20回 ちまき作り実施計画

ふるさとの味「ちまき」をつくり、一人住まいのお年寄りに届けよう

1. ちまきを作る日 平成20年6月3日(火) 9時40分～12時30分
2. 場所 富貴中学校調理室
3. 笹取り 5月29日(木) 5・6限
4. 指導者 富貴中学校・富貴小学校保護者、職員
5. 参加者 中学校生徒(8名)・小学校児童(8名)・保護者・職員
6. 班編成 別紙
7. ちまきを届ける日 6月3日(火) 13時30分～16時
8. ちまきを届ける対象 70歳以上の一人住まいのお年寄り 77名
9. おもな準備物
 - 笹 500本
 - しゅろの葉のひも 500本
 - あん 12kg
 - うるち米・餅米の粉 (一斗)
 - 小麦粉・片栗粉
 - ナイロン袋 130枚
 - ちまきと一緒に届ける手紙 80枚
 - 蒸し器、ボール、まな板(各班1つずつ)
 - 各自の準備物 エプロン、三角巾

10. 各学年の目標

学年	目 標
----	-----

小学校	低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとに受け継がれてきたちまきの作り方を知る。 ・ふれあい学習を通して、地域のお年寄りの方とふれあいながら地域の様子を知る。 	進んで話そうとする態度を養う。
	中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ちまき作りに興味・関心を持ちながら、役割分担をきちんと果たす。 ・ふれあい学習を通して、お年寄りの方の思いを知る。また、今なぜちまきが作られないのかを考える。 	
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ちまき作りを通して地域の現状を知り、地域の課題を見出す。 ・ふれあい学習を通して、人々の思いや願いを知り自分たちに何ができるか考える。 	
中学校	一年	<ul style="list-style-type: none"> ・ちまき作り・配付が順調に行われるように、小学生をリードしながら意欲的に取り組む。 ・ふれあい学習を通して、地域の現状や課題を自分のものとして感じ取る。 	挨拶や説明などTPOを考えた会話をを行い自己表現力を培う。
	二年	<ul style="list-style-type: none"> ・ちまき作り・配付において、準備や計画など積極的に取り組む。 ・ふれあい学習を通して、地域の現状や課題に気付き問題意識をもつ。また、地域の一員として自分達に何ができるかを考える。 	
	三年	<ul style="list-style-type: none"> ・ちまき作り・配付が順調に取り組めるように中心となって計画・実行する。 ・ふれあい学習を通して、自分たちの郷土を見直し自らの課題解決をはかろうとする。 	

ちまきづくりの学習過程 (3時間)

学 習 活 動	備 考
<ul style="list-style-type: none"> ・身支度を整え、材料・調理用具類を準備する。 	エプロン・三角巾
<ul style="list-style-type: none"> ・ちまきのつくり方を聞く。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・湯を沸かす。 	湯の温度は約70℃
<ul style="list-style-type: none"> ・笹を洗う。 	葉に付着しているすすや汚れを落とす。
<ul style="list-style-type: none"> ・あんこを親指大の大きさに丸める。 	班ごとに120個
<ul style="list-style-type: none"> ・うるち米の粉ともち米の粉をよく混ぜ、湯で練る。 	やわらかすぎないよう粉の様子を見ながら湯を注ぐ。
<ul style="list-style-type: none"> ・粉をつけながら、団子に丸められる固さになるまで練る。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・練った餅を適当な大きさに切り、団子状にする。 	大きさをそろえるため、棒状にのばして切る。

<ul style="list-style-type: none"> ・できた団子状のものを平たくのばし、あんこを包み込み、にわとりの卵ぐらいの大きさの餅になるよう形を整える。 ・餅を2～3枚の笹の葉で形よく包み、しゅろの葉のひもで結ぶ。 ・包んだちまきを蒸し器に並べて蒸す。 ・蒸し上がったちまきを取り出す。 ・全員で試食する。 ・一人住まいのお年寄りに届けるちまきをナイロン袋に入れる。 ・後かたづけをする。 ・配付班に分かれ、人数分のちまきを確認する。 	<p>形を整えた餅に片栗粉をまぶす。</p> <p>約20分ほど蒸す。</p> <p>やけどに注意する。</p> <p>班ごとで試食。</p> <p>生徒会執行部が作成した手紙も一緒に添える。</p>
---	--

ちまき作り 児童・生徒感想文

【中学生】

・私は最後のちまき作りをしました。目標はお年寄りの笑顔をたくさん見るということと、おいしく作るという事が目標でした。

ちまき作りの説明や司会をする時とても緊張しました。でも、リーダーシップをとることができ良かったです。配りに行ったとき、おじいさんやおばあさんの笑顔をたくさん見ることができ、本当にうれしかったです。これからもおじいさん、おばあさんに喜んでもらえるように続けてほしいです。

・今年は去年よりも少し作り方がわかっていたので、前より段取りよくできました。それに去年よりも気持ちが込められた良いちまきが出来たと思います。今年の目標はお年寄りの方に喜んでほしい、たくさん話をすることでした。

配ってみるとお年寄りの方はみんな喜んでくれたし、中にはジュースをくれる人もいてうれしかったです。でも話があまりできなかったのもっと話したかったです。

三年になったら最後の年になるので、もっと自分で行動ができるようになりたいです。

・ちまきを作った時、一つ一つに気持ちを込めて作ることができたので、とてもよかったと思います。ちまきをお年寄りの方々に配ったとき「いつもいつもありがとう」や「毎年楽しみにしているんや」と言ってくれて、とてもうれしかったです。それに去年よりもお年寄りの方々と笑顔で話すことができたので良かったです。あんなにも喜んでもらえると思っていなかったの、お年寄りの方々の感謝の気持ちを聞いた時、来年ももっと喜んでもらえるように頑張ろうと思います。

・笹取り、ちまき作り、ちまき配り、全て大変だったけど、お年寄りにとても喜んでもらったので、うれしかったです。

ちまきを配りに行ったとき、去年よりもお年寄りと話をするのができたのでよかったです。今年はすべて小学生と一緒にしたので、楽しくちまきを作ることができました。来年もちまき作りを頑張ってお年寄りたくさん話をしたいと思いました。

・ちまき作りは、1週間前の笹取りから始まりました。ちまき作りはとてもむずかしかったです。特にむずかしかったのは、ちまきを笹で包むことでした。昼からは、一人住まいのお年寄りのおばあさん、おじいさんの家へちまきを配りに行きました。あるあばあちゃんが、「ありがとうよ、仏様にお供えしてからいただくわ。」と言って喜んでくれたので、すごくうれしかったです。

・笹取りはすごく疲れました。初めてだったけど、笹が予定よりたくさん取れてよかったです。小学生と一緒にちまきを作れてすごく楽しかったです。話をしながらできたので楽しく作ることができました。ちまきを配りに行ったときは、お年寄りの笑顔をたくさん見ることができてよかったです。地図を見て歩いているととっても疲れましたが、笑顔を見ると「作ったかいがあったなー。」と思いました。何度も「ありがとう。」と言ってもらえてすごくうれしかったです。来年も「ありがとう。」と言ってもらえるように心を込めて作りたいです。

・ちまき作りの日、笹を湯がく所から始まりました。意外と湯がくのも熱くてしんどかったです。作るときは、小学生達と楽しくできました。あんを包むのがむずかしくて、あんが飛び出てきました。ちまきを笹で包むのは、みんながやってくれました。そして、すごくおいしいちまきができました。配るときは、おばあさん達とお話をたくさんしました。一番うれしかったのは、やっぱり喜んでもらったことです。目標は達成できたのと、できなかったのがあります。だから来年は、自分の目標を全部達成できたらいいなと思います。

【小学生】

・おばあちゃんの家に行った時、笑顔で「ありがとう」と言ってもらったときは、ちまきを作ったかいがあったと思いましたおばあちゃんと話していると、うちのおばあちゃんの話が出てくるので、話が盛り上がりました。

・ちまき作りの日に、エプロンをつけて、中学校のかていかしつへ行って、あんこまるめをしました。わたしは、なおやくんと二人だったのでがんばって作ろうと思いました。おとしよりの人によるこんでほしいなとおもいながらしました。なおやくんも1つ1つ、ていねいにまるめていました。

あんこまるめがおわってから、ちまきのかわであんをつつんでいたら、しんどくなったので、ほけんしつでねていました。わたしはねながら、もっとささのはっぱでつつんだりしたいなとおもいました。

らい年はたいちょうをととのえてがんばりたいです。

・ちまきのきじをねるときにさきちゃんのおばあちゃんやみほちゃんのおばあちゃんはふつうにねっていたけど、じっさいにねってみるとすごくあついのによくねれるなと思いました。ぼくはあつくてやけどをしかけたけどさきちゃんのおばあちゃんにコツを教えてもらおうとぜんぜんあつくなくてこねやすくなりました。ちまきをささにつつむときに、やる前はむずかしそうだったけどつつみかたを教えてもらおうと意外にかんたんでした。ちまきを配りに行ったときすごくうれしそうでもらってよかった。またアイスやジュースをもらった。その人はすごくうれしかったんだなと思いました。

・私は、去年よりも上手に作ろうと思いながらちまき作りに取り組みました。

はじめは、あんまるめをして、去年は大きさがバラバラだったけど、今年はちゃんと大きさが同じになりました。そして、去年までは、あんまるめだったけど、今年は、きじであんを包んだり、ささで包んだりして、はじめてだったので、おしえてもらいながらしました。「むずかしいな。」と思いました。

昼からは、ちまき配りをしている色々な家へ行きました。

一番いんしょうにのこっているのは、何回も「ありがとう。ありがとう。」と言ってくれたおばあさんの家でした。わたしは、とてもうれしがってくれていて、作ってよかったなと思いました。来年もよろこんでもらえるようにがんばりたいです。

・今年のちまき作りは、初めてやったことばかりでした。あんこまるめはやったことがあったけれど、ちまきのきじにあんこをつつむのはあまりやったことがなかった。ひとり住まいのおじいちゃん・おばあちゃんによろこんでもらえるように気持ちをこめて作りました。つつむときは、来てくれていたお母さんやおばあちゃんにおしえてもらいました。

昼から、ちまきを配りに行きました。はじめはきんちょうしたけど、おばあさんやおじいさんにくばったとき、すごくよろこんでくれてうれしかったです。90さいのおばあちゃんは、すぐくげんきですごくよろこんでくれて、わたしは、そのおばあちゃんのことをいんしょうにのこっています。

おじいちゃんやおばあちゃんがすごくよろこんでくれて、来年もがんばろうと思いました。

・ぼくは、くばるのをがんばりました。

はじめにふくしセンターにくばりにいきました。センターのおくに行くのははじめてでした。ドアがいっぱいありました。あじさいとかすみれとかはなのなまえがありました。のどかちゃんが出てきて「たべてください。」と行って、「みんなでたべてください。」といいました。

おばあちゃんは、「おおきによ。」とうれしそうにしてくれました。ぼくもうれしくなりました。

・ままはよろこんでくれました。ぼくやみんなといっしょにがんばってちまきをつくったからです。あんこまるめをがんばりました。あんこがてにひつつきました。あんこなめたらおいしかったです。うれしかったです。もちでつつむのや、はっぱでつつむのはむずかしかったのでできませんでした。

せんたーへわたしにいきました。おばあちゃんはにこにこがおでした。

・さいしょにあんこまるめをしました。せんせいがあんこをわって、はるながあんこをまるめしました。

1ばんにできました。はるなたちはふたりだったけど、ほかのちーむは3にんでした。でもはるなたちはいちばんでした。

つぎにもちでつつみました。ぎょうざみたいにひろげてあんこをいれましたたまごみたいなさんかくのかたちでした。かたくりこをつけるのをわすれてもちがてにひつつきまくってあんこができました。そしてのどかちゃんにもちをもらいました。そのもちをくっつけたらうまくいきました。まるめたおもちをささでつつみました。りぼんむすびはできなかったけど、ささのはっぱでつつむのはじょうずにできました。

できたおもちをふくしせんたーへくばりにいきました。はじめてふくしせんたーへいきました。のどかちゃんが「たべてください。」と行ってくれました。みんなでいっしょに「たべてください。」とこえをそろえていいました。おばあちゃんはちょっとなみだがでていました。

H20年度ちまき作りに取り組んで（成果と課題）

富貴中学校のちまき作りも、今年で第20回を数えるようになった。平成18年度より小中一貫教育モデル校事業の指定を受け、段階的に小学校の児童の参加も増えてきた。平成18年度の小学生の参加は、低・中学年と高学年が時間差で参加するという形をとった。低・中学年は1限に餡丸め、高学年は2限に生地の中に餡を包む作業に参加したが、低・中学年の子どもと中学生の交流が少なかったのが課題であった。そこで19年度には前年度の反省にたつて、小学生も1限から全員が参加し、餡丸めから笹包みまで全工程のちまき作りに取り組んだ。また、お年寄りへの配付にも6年生が加わった。本年度は、高齢者とのふれあいの機会を全員に持たせることをねらいとし、小・中学生全員で笹とりから配付までの全工程を一緒に活動する取組とした。みんなで作り・みんなで配付し・みんなで感動の場をもつという取組になった。

【職員から】

- ◎ 有識者評価委員の学校訪問と兼ねた今年のちまき作り。保護者だけではなく地域の人々の応援も入ってのちまき作りであった。子ども達（小学生・中学生）がいきいきと輝いて活動していたのが大変たのしく見えた。ちまきの配付では、子ども達にとっては生きた道徳・教科の授業になったと思う。これを機会に次の行動に移って欲しいと考える。
- ◎ 当日は教室とは違う学習活動をし、子ども達の新たな一面を見ることができたと思う。ちまきについての由来、地域の人々の願い、作り方等主体的にまるごと調べていくことができれば、よい総合学習の取組になると思う。
- ◎ 今年は、ちまき作りの取組全体を見直す機会になったと思う。小学校低学年が全過程に参加することになり、どこまで出来るのか、事故の可能性や危険性は・・・と心配も多かった。それでもお年寄りが涙を流して喜んでくれた姿を見せることは、子どもの心の糧として、ちまき以上の栄養素を含んでいることを確信する。
- ◎ 手間ひまをかけたちまき作りは、伝統文化の継承として値打ちのある行事である。色々な教育的な位置づけや方法論も大切だとは思いますが、地域を歩き地域の人々やお年寄りとの出会いや交流の機会となっていることこそがポイントであろう。小中縦割りの活動もよかったと思う。

おわりに

今年度は小学生全員も配付に加わり、それぞれが目標をもって精一杯取り組めた活動となった。事後の子供たちの感想では、小学校低学年の子ども達にも、おじいさんやおばあさんのうれし涙が心に響いたようである。この取組で一番大事にしている部分が伝わり、本当に意義のあるものだと感じた。毎年の活動であるが、真摯な気持ちで取り組んでいければと考えている。ちまき作りをはじめとする地域でのボランティア活動が認められ、平成18年度にはキワニス賞も受賞した。今後もこれらの活動を通じて、子ども達自身が主体的にふるさを見つめ直す機会とし、主体的に行動ができる取組にしていければと思う。また、課題追究型学習「みんなの学習」ともリンクした探究活動を目指していきたい。